

# 促進学級経営記録 (その一)

足利市立山辺小学校 金子伊吉

## 学級の誕生

法にも「教育の機会均等」が記され、児童憲章にも「子供の幸福」が記されていることは、私がおもて述べる迄もない。1人1人の教え子が健康で恵まれた環境の中で幸福な生活を送られる様にとしない教師はない。然し世の中には精神的にもこれらの児童をどう指導すべきかと云うことに就くは多くの教師の悩みの種であると思ふ。

意願の一部なりとも具体的な形で現れたのが山辺小学校促進学級であり即ち4年1組金子学級で云えよう。

## 促進学級とは

促進学級とは、知能指数の低い子供達や、生活環境、学習環境などの関係から、知能の割合に学習出来ない不摂児などを集めて、治療学習し、かつ心理的に学習指導するクラスである

## 学級編成

学級におればのけものにされるか、お客儀的存在の児童ばかりを集めるのでその編成は重要なものである。知能の低い児童は自主性に乏しく、何事につけても付和雷同するものである。今迄各クラスに散らばつておつた何等かの問題児が1クラスに編成されるのであるから、これから先に於て何等の集団的心理に影響されて児童に変化があることは予想される。

## 編成基準

検査 標準学力検査(国語、算数)等により学年会にて決定する。

## 人数

20名女21名 計41名

## 知能偏差値

55 ~59	50 ~54	45 ~49	40 ~44	35 ~39	30 ~34	25 ~29	20 ~24	15 ~19	計
			3	7	7	1	2		20
	1	2	2	7	4	4	1		21
	1	2	5	14	11	5	3		41

#### (4) 学習方法

此の促進学級において授業をして、来年度は普通学級に戻れることを前提としての授業をおこなうのである。又高学年、中学校には促進学級がないから必然にそうなるわけである。

- (1) 国語と算数を重点的に扱う。
- (2) 能力に応じたものを指導する。
- (3) 基礎的事項をしつかり把握させる。
- (4) 具体的、直観的に指導する。
- (5) 反復練習を多くする。
- (6) 日記の指導をする。

(イ) 国語教育のために、(国語、誤字、脱字の指導)

(ロ) 生活指導のために、(能力に応じた表現の指導)

(ハ) 児童の心理研究のために、(内容についてその子供と話す。)

#### (5) 児童の特質

(1) 非常に落ち着きのない騒がしい学級である。それに時々注意するのであるが、授業中及び、休み時間中に奇声を発する。授業中に私語が多いので、「休み時間に騒げ」などと云うと、休み時間になつてから必要以上の声でわめくこともしばしばある。

(2) 非常に忘れん坊である。宿題はいつも半分の児童しかやつてこない。2,3日も続けようなら、分の1以下である。これは忘れるだけでなく勉強する意志がないのであるから、忘れん坊プラス不勉強かも知れない。毎日使う教科書、ノートも必ず二人は忘れてくる。「明日、クレパスを用意したい」等と話す五人位はきつと忘れる。そんなわけだから時間割表以外に授業することは本当に困難である。忘れ物調べをやつて表に書き出してあるがなかなか効果が見えない。

(3) 言葉使いが乱暴である。地域により幾分の差はあるとしても男女の別なく言葉使いが悪い。この子が教室で「てめえ、ぶつとばすど、やるきか」などと聞くことがしばしばある。私も此の学級に溶けこむために一学期は少し悪い言葉を使うようにし、子供の言葉使いも注意しなかつた。子供達は私を「金子のおぢちゃん」と呼んだ。私は平気で返事をして子供達の中に溶けこんでいった。二期になつて子供達をしつかりと掴んでから現在迄序々に言葉使いも矯正してきた。

(4) 特殊なリーダーに引きつられる。従つて問題児は学級から除くべきである。

この組の子供達の特質は二つにわけて考えられる。から元気のある子供と、お客さんである。従つて児童は自主性のない非常に付和雷同する子供達である。だから腕力の強い者や、特殊のリーダーにきずられ易い。男子には今の所手におえないような乱暴な児童もいない。知能と共に社会性も低くみずからボスとなつてクラスをひきまわすような児童もいない。女子は男子と違つて「元気な子

知な子、とはつきり区別出来る。元気のいいもの同志の喧嘩では女の子でもバカ野郎呼ばりから、粗野の喧嘩まで演ずる。尚一名大ボスがいるので以下述べます。

#### 女ボス S 子の事例

此の学級の大ボスである。知能指数 68 両親に妹 1 人の 4 人家族両親が若く、共稼ぎである。二間の借家。

非常に自尊心が強い。「私は毎晩勉強している」「女学校へ行く」など、時々口にする。親戚や、今度オーバーを買って貰うとか、子供自転車を買って貰うとか、すべて自慢しながら得意に話す。

祖の児童の家庭は概して経済的に苦しく、女学校へ行ける子供もなく、新しい洋服や品物も、なかなか買って貰えない子供達ばかりである。これは自分を誇張するためや、人に特に強く認められたら、ボスの權威づけるためかと思う。そして自分が憧れの的となり、女王的に皆の前に君臨し、希望からも知れない。将来何になりたいかとの調査に S 子は「俳優」と誓った。

自分の意に反した者はのけ者として遊ばない。それでいてそれ等の者同志が仲良く遊んでいるやがらせを云つたり、その仲間の 1 人を引き抜いたりする。

非常にねたま屋である。友達が新しい洋服を着てくると「私も買って貰うんだ」とか、「これが悪い」「格好が良くない」とか云つてすぐけなす。ブローチとかシオリなど持っているとき、欲しがらる。くれないと「ケチ」とかなんとか云つてけなす。

一度脅迫をしたことがある。一学期のことである。F 子は S 子と仲良しで女では 1・2 番の成績

T 子は温和で組一番の綺麗な服装を毎日している子供である。S 子とは特に仲が悪い。その或る日、間違つて F 子のセーターを少しやぶいてしまった。そのことを聞いた S 子は T 子に弁償金として 20 円請求した。そしてそのお金を 10 円づゝ分けて着服してしまった。後日、父親からの連絡で私は知った。

問題を何食わぬ顔で、例えばと前置きして道徳の時間で扱った。すると F 子は翌日 10 円を T 子に渡した。S 子はそのまま反応なしである。

姿勢が悪い。正しく不動の姿勢が出来るようになれば、学力も遂次向上する。朝教室に入つて朝の挨拶をする。その時に私は健康観察と兼ねて姿勢を見る。しつかりと立てないで中腰で居る子、隣の子と話を止めない子、椅子に或は、机に足をつけている子、片手を机に掛ける子、手を一寸机にふれている子が最も多い。毎朝注意しているが三学期になつても未だに変わらない。これはどうも「しつかり立て」「手をはなせ」だけの注意ではどうも直りそうもない気が来た。

立てない子は心の独立が出来ない証拠だと思ふ。依存心が強く、何か心の支えがないと 1 人の子供ではないかと思ふ。授業が始まると固くなり、幾分かの恐怖さえも持っている。児童

達に見れば、不動の姿勢がとれないのも無理ないことも知れない。手先がきちんと伸びて不動の姿勢が出来る子供は心身共に健康で学力にも恵まれた児童と見て間違いないと言える。

(7) 責任がなく協力が出来ない。社会科の調査での分担責任などは、各班に対して割当をするけれども平気でやつて来ない。宿題なども、あまりやつて来ないので班責任にしてみたけれどもあまり効果はないので今はやつておらない。そもそも促進に適さない児童を入れておくことが間違いで、ここでは促進学級の本当の目的は達せられない。ドッジボールの試合をしても自分のポジションを守ることができない。少し球が来ないと隣りの子と話をしたり、地面に何か書いたりしている児童もいる。仲良く遊んでいるなと思つていたらすぐ喧嘩する子供達であり全くエゴイズムの強い児童達である。

(8) 臨機応変の処置が出来ない。給食当番が給食を取りに行く。その時においても早く行つた者が軽そうな物を二人位で持つて来る。遅く行つた者が休み休み重い物を運んだりしてくる。力のバランスなど考えないのだ。それで今度は持つてくる物を決めた。すると当番が休んだり、サボツたりするとその物だけおいてくることになる。「隣りの組と違う」と誰かに云われてあわてて取りに行つた事もある。気づいてもその場で人数を都合しあつて一度に運ぶような事をしないで、一度教室へ運んでから、私に話してから又取りに行つて遅くなつた事もある。又、店に買物を頼んだこともある。20円の糰1個買つてくるように話す、子供は買いに行つて来て「売つてない」と云う。「それではあの店に行つて来たの」と聞くと行かないと云う。同じ文具店が学校前に三軒もあつて、A店にないからB店、C店で買つて来ようなどとは考えないのである。であるから、これがだめならあれ、あれがだめならこれと、受持はいつも「若し」と云う事を考えて何事も話さなければいけないのである。

## (6) 生育歴との関連

児童の生育歴が現在の子供たらしめている。子供が生まれても、その子が両親に喜ばれない子供であれば、それ程不幸な事はない。欲せずして出生した子供は必ず欲求不満があり、それが後の児童の性格形成に影響する。性格は遺伝的なものとする考え方と生後の環境、教育の力によるものとする考え方と二つの考え方がある。

今迄性格の形成せられる原因を主として遺伝的なもの、素質的なものに求めた。いかにもそれは基本的なものであろう。然しそのような素質をもつて生れ出たとしても、それが生後においてどのような外的条件のもとにおかれ、どのような育ち方をしたかということが、性格を決定づける重要な因子となることは否定出来ない事実であらう。いろいろな外的条件に接し、数多くの経験をし、その経験が積み重ねが、それぞれの性格を形成すると思えば、実に素質以上に大きな要因となると考えられる。

### (1) 兄弟数と長子の事例

児童数 40名のうち長子2名、末子20名

兄弟姉妹	兄弟数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人数	1	1	4	13	14	4	1	1	1	0

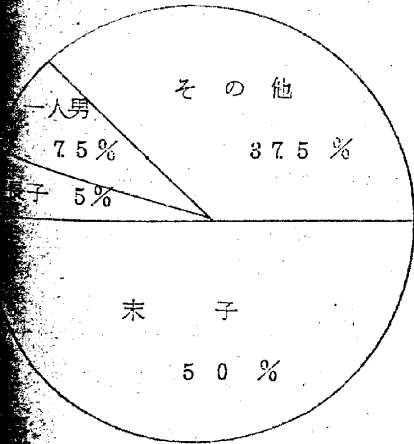
子。(前掲女ボス)

の2人姉妹、父29才、母32才S子の出産は19才の父親には欲せざる子供で手足まといのつた。そこでS子は両親の愛情を充分に受けることができなかつたと考えられる。父は八百屋、母は町工場の織物工であつた。然し商売が思わしくなく昨年退職に転業した。母は温和な人の父は負けず嫌いの気性の強い人である。

妹1人の3人姉妹、父は店員42才、飲酒家で生活に節度がない。母は神経衰弱で子供の世余りしないで、家事は入学当初より一切やらせた。夫婦仲はそんなわけで良くなく母は昨年十月自殺をしてしまった。その後も家の中は相当に乱雑であり父の飲酒は止まない。母の死後K子は、学校を休まないようになった。孤独である。

## 末子と学力について

[末子調査]



兄弟数は別表の通りであり、4人、5人兄弟が大部分で67%を占めております。特にその中で驚くことは末子が50%もおるということである。

何故に促進学級にこんな多くの末子がおるのであるのか、私はこんなように考えた。

一般に家庭では一体何人位子供が欲しいと思ふのであろうか、恐らく3人か4人位までではなからうかと思ふ。そうだとすればこれらの末子は親の欲せざる子供である。そのような子供に対しては、自然と親の子供に対する態度も変つて来るであらう。また父の意に反して生んだ子供などは、自然と父親は可愛がらない、それに反して母親は愛撫の意も手伝

子供を溺愛する。(将来の性格形成も考えずに、)そして愛玩的に子供を育成して来たのであろうか。愛情不足の中に子供の精神は安定を得ることがない。不安定な情緒の中に育つて来た子供は着きのない、持続性のない子供だと言える。

時に甘く育て、子供の好きなようにさせて、急に大きくなつてから鍛練をしても一朝一夕にな

おるものではない。ただ可愛がるというよな猫つ可愛がり方では子供をそこなうのは当然である。人の子供は単なる動物的な愛だけによつて満足に育つものではない。

## (8) 身体的障害と学力との関係

### 疾病調査

	蓄膿症	扁桃腺炎	慢性中耳炎	耳垢栓塞	結膜炎	近視	白癩	亀背	姿勢注意	う歯	蛔虫保持
男	3	10	1	1	3	0	4	0	2	18	1
女	8	10	0	1	2	2	0	1	3	19	2
計	11	20	1	2	5	2	4	1	5	37	3

扁桃腺炎が50%もいることは、此の学級たらしめて原因に多大の作用を及ぼしていると考えられる。此の中には散密に検査すれば、アデノイドの児童も何名かおるのではないかと推定される。二百三百何十名かの児童を2日

位で済ませるため、口中を一寸見るだけの事務的な処理方法で現在の耳鼻科の診察は行われている。

言うまでもなくアデノイドとは鼻の一番奥の部分が悪い病気で、昔からアデノイドになると馬鹿になるとまで言われた病気である。頭が重くハッキリせず、常にイライラしている精神状態にある病気で医学的にも学力の低下することが証明されるそうです。

蓄膿症は全体の25%。現在2名の児童は常に鼻汁を出しており、注意しても「だつてすぐ出るんだもの」と言つてそれを気にしない位に慢性化してしまつている。小学校では蓄膿性と学力はあまり関係がないと専門家は言つておられるが、やはり鼻のつまたあの苦しさ、ハッキリしないことなどを思い合せると、学習に持続性がない点など大いに関係があるように思う。

慢性中耳炎1名、此の児童は、これが原因であると私は言える。無口で1人で絵を描いているのが大好きな子だ。授業中はボーッとしていることが多く、宿題などは殆んどやつて来ない。呑み込みが遅く必ず個人指導してやらねば出来ない。

近視2名、2名とも温和しい女の子である。特に1名は昨年まで先生と話も出来なかつた。そんな訳であるから今まで板書の字が見えなくとも、そのまま過ごされて来たものと思われる。近視の私はすぐ気づいた。家庭訪問して眼鏡も買つて貰つた。座席も前にした。板書の字も大きさに注意した。最近この2名は成績もぐんぐん伸びてきた。

姿勢と学力に就いては前に述べたが、亀背1名、姿勢注意が5名おりふだんの姿勢を注意するのはさることながら、これが矯正について毎朝教室での挨拶前に不動の姿勢をさせている。

それに難聴と言ふのがある。自覚症状がないのでこれは本人も気づかずにおる場合が多い。たまたま右の難聴児が南の窓際に来た場合などは時々教師の話を聞き渡らす事が多いので注意すべきである。こういう子供は案外少いが親も教師も気づかないために不幸な状態におかれてるので注意すべきだ。

これ等疾病児の多くは、単に身体的な故障をもつただけでなく、同時に心理的な故障も、もつてい

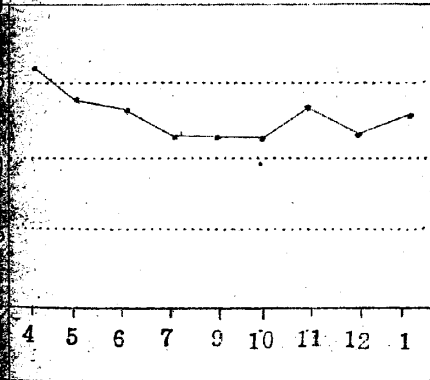
著腹症の子供は「鼻汁がでてきかないから遊ばない」とか、「授業中にグウグウいつてうる」とか言われて他の子供達から馬鹿にされたり、除け者にされたりしている児童を見かけた。それからその児童は女の子をいじめる意地悪な攻撃的な子供になっている。或は、そんな事から劣等感を強くもって消極的な子供になる場合もあるだろう。

上述した疾病は必ず保護者に連絡するが、なかなか治療しないのが現状である。受持教師の熱意がなくなると、此れら保護者の理解と絶対的な協力が無い限り促進学級の成果は期待されない。

## 家庭状況

経済は普通学級に比して極めて悪く、集金には頭を悩ます問題である。学校給食はこれ等の児童に必要であるけれども月額300円の給食では毎月食べるのが困難である家庭が多い。

給食申込数 (4.5.6月150円、7月以降300円)



## 生活環境

	男	女	計
生活扶助家庭	0	1	1
教育、給食扶助	1	6	7
困難と思われる家庭	11	6	17
普通家庭	8	5	13
普通以上の家庭	1	1	2
定職のあるもの(含農業)	12	13	25
定職のないもの(日雇)	6	5	11
商店・工場経営	2	2	4

## 父兄対策

学級は父兄の理解と協力、更に広く一般社会からの理解協力が必要である。然し実際問題となる協力とか云う事は口で云う程簡単なものでない。理解したというが、いざ自分の子供をその学級に入れるという段になると、どうしても感情の上で割り切れない父兄の悩みがある。「友達に馬鹿にされないだろうか、肩身の狭い思いをしないだろうか」などと親の情の切々たるものがあり、又、近隣や親戚に恥かしい、その子の将来の結婚に影響する」などと、思ふ親兄弟の面子の問題も、気心ばかりとは云いきれないものがある。

父兄から心配されるような劣等感も馬鹿にされる者もなく普通学級にいるような気持で子供達は伸び伸びと学習している。何んでも親の身になつて考えて見ること、そしてそれが父兄の心を解く第一の方法である。教師は1人の人間としての温み、良識をかまえていなければならない。心を打ちあけて話し合ふ。不当に融け合う事が出来るのである。難かしい教育理論を話す前に先ず実際の教室の子供の姿を知らうのが最も大切である。